

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 6 月 6 日現在

機関番号：14401

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2013～2016

課題番号：25671016

研究課題名(和文)研究成果活用・健康生活・省察を基盤とした公衆衛生看護実践能力修得プログラムの開発

研究課題名(英文) Development of a Program to Acquire the Public Health Nursing Competencies Based on the Skills of Research Utilization, Healthy Daily Living and Reflective Practice.

研究代表者

岡本 玲子 (OKAMOTO, Reiko)

大阪大学・医学系研究科・教授

研究者番号：60269850

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,900,000円

研究成果の概要(和文)：【目的】本研究の目的は、保健師課程の学生を対象に、研究成果活用、健康生活実践、省察的実践の各能力を総合的に習得する教育プログラムを開発することである。【方法】プログラムは、研究者間で協議し、3回の試行と修正を経て開発された。各学生は、3年生前期の3か月間に3つの学習課題に取り組む。倫理的配慮について、研究においては成績判定後に記録類を用い、参加者の成績には一切関係がないこと等を事前に口頭と文書で説明し、同意書を得た。【結果】前後のアウトカム評価では、参加者の対人支援・地域支援における多様な能力が有意に高まっていた。【結論】本プログラムは今後、大学院教育や現任教育への適用可能性がある。

研究成果の概要(英文)：【Objectives】The objective of this research project is to develop a program to acquire the public health nursing competency based on the skills of research utilization, healthy daily living and reflective practice for the students of the public health nursing course. 【Methods】The program was developed while undergoing a process of three test trials and corrections through researchers' discussions. Each student wrestles with three learning tasks during a three-month period of the first semester in their third grade. We explained about ethical considerations orally and by a document, and got written consent. 【Results】In the before-and-after outcome assessment, the variety of competency in the individual support and community support of the participants exhibited a significant degree of advancement. 【Conclusion】In the future, this program may find applications in the education of graduate school and active service public health nurses.

研究分野：地域看護学(公衆衛生看護学)

キーワード：公衆衛生看護学 実践能力 人材育成 保健師教育 コンピテンシー 省察的実践 研究成果活用 健康生活

1. 研究開始当初の背景

1) 新しい保健師課程において公衆衛生看護の実践能力を高める教育方法を開発する必要性

複雑で多様化する健康課題に応じる人材育成の必要から、2009年7月に保健師助産師看護師法が改正され、保健師資格取得に必要な教育年限が6ヶ月以上から1年以上になった。これを受け2010年11月、厚生労働省は学校養成所指定規則を変更、保健師のコア科目を地域看護学から公衆衛生看護学に、単位数を23単位から28単位とし、全国保健師教育機関が2012年4月からカリキュラムを改正したことから、それに応じる効果的な教育方法の開発が急がれている。

2) エビデンスに基づく公衆衛生看護の実践能力を高める必要性

エビデンスとは意思決定や問題解決に用いる事実や資料であり(Butcher R. B.1998)、最新最良の知見を正しく用いることが実践の原則とされている(Guyatt G, et al.1992)。厚生労働省が2010年に設けた「保健師に求められる実践能力と卒業時の到達目標と到達度」の大項目には「専門的自律と継続的な質の向上能力」(以下★と略)があり、その細項目に「研究の成果を活用する」が設けられている。生活習慣病や健康危機など現代の健康課題を効果的に改善するために、エビデンス・理論活用は必須であり、この能力の向上は喫緊の課題である。

3) 住民に保健指導を行う専門職として自身の健康観と健康生活の力量を育む必要性

看護職の倫理要綱(ICN.2005、JNA.2003)には専門的知識・技術の創造と開発に加え、自身の健康増進の責任が明記されている。地域住民の健康観を醸成し、健康づくりを推進する専門職になるために、基礎教育の段階から、健康生活実践の力量と責任感の育成は必須である。

4) 省察的実践(Reflective Practice)により継続的に自己成長できる能力開発の必要性

英国では1990年代よりポートフォリオを用いた省察的実践が免許取得や更新の時の評価に導入されている。わが国では、細項目に「継続的に学ぶ」「保健師としての責任を果たす」が設けられ、また2009年の看護師等の人材確保の促進に関する法律改正で、卒後の自己研鑽の努力義務が定められたことから、自己成長の

力量形成を促進する方法論の開発が急務である。

5) 研究代表者は、20年余り公衆衛生看護教育に関わる中で、学部生が持つ課題、即ち1)卒業時に求められる実践能力に至らず、エビデンス・理論活用にも課題がある、2)自身の健康生活実践が脆弱で適正な対象理解・想像力が不足している、3)省察に基づく実践の改善が不十分である、という課題を痛感してきた。今回、この課題を総合的に解決する教育を模索するため、本研究に着手することとした。

2. 研究の目的

近年、健康課題の多様化・深刻化に伴い、保健師に求められる役割が拡大・高度化している。本研究の目的は、保健師課程の学生を対象に、高度な公衆衛生看護実践の基礎となる研究成果活用、健康生活実践、省察的実践の各能力を総合的に習得する教育プログラムを開発することである。同時に各能力の評価指標の開発、及び各能力の実態と関連要因についても検討し、プログラムに反映する。

3. 研究の方法

プログラムは、研究者間で協議し、3回の試行と修正を経て開発された。プログラムの学習目標は「生涯を通じたContinuing Professional Developmentの土台となる学び方を学ぶ」である。各学生は、3年生前期の3か月間に3つの学習課題、研究成果活用・健康生活実践・省察的実践に取り組む。プログラム実施期間中の授業は、初回の課題説明、1か月後と2か月後のグループ・セッション、3か月終了時の個別面接で構成されている。

プログラム試行の参加者は、2013から2015年度の学部選択制の保健師課程学生60人であった。プログラムのアウトカム評価は、2013・2014年度の40人のプログラム実施前後の「保健師に求められる実践能力のミニマムリクワイアメント到達度の自己評価」、プロセス評価は、期間中参加者が記載したワークシートとプレゼンテーション資料を用いて行った。

倫理的配慮について、研究においては成績判定後に記録類を用い、参加者の成績には一切関係がないこと等を事前に口頭と文書で説明し、同意書を得た。

4. 研究成果

プログラムを実施した結果、以下の結果に示す一定の効果が確認された。前後のアウトカム評価では、参加者の対人支援・地域支援における多様な能力が有意に高まっていた。さらに、参加者の学習プロセスにおいては、日常の健康生活実践についてリフレクションと研究成果活用が習慣化することによって、保健指導の対象者への理解と効果的な接近方法への気づきが促進されていたことが確認された。

本プログラムは今後、大学院教育や現職教育への適用可能性がある。今後のプログラム充実に向けては、多様な状況に応じた学習支援方法の確立、教材や評価指標の開発、学習支援者育成方法・体制の確立といった課題がある。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計 8 件)

松尾睦, 岡本玲子, 保健師の経験学習プロセス, 国民経済雑誌, 査読有, 208 巻, 2013, 1-13

小出恵子, 岡本玲子, 猫田泰敏, 岡田麻里, 保健師を対象としたリフレクションに基づく保健指導技術向上プログラムの効果, 日本地域看護学会誌, 査読有, 17 巻 3 号, 2015, 4-13

岡本玲子, 「リフレクション」で保健指導力を高めよう! 「学習成果創出型プログラム」活用のすすめ, 保健師ジャーナル, 査読有, 72 巻 7 号, 2016, 564-568 DOI :

<http://dx.doi.org/10.11477/mf.1664200477>

塩見美抄, 岡本玲子, 岩本里織, 行政機関で働く保健師の実践能力の実態 - 2005 年と 2010 年の比較 -, 日本公衆衛生看護学会誌, 査読有, 第 5 巻 3 号, 2016, 239 - 249 DOI :

http://doi.org/10.15078/jjphn.5.3_239

岡本玲子, 行政保健師の卒後教育と CPD 体制の現状と展望, 公衆衛生, 査読無, 80 巻 12 号, 2016, 889-893 DOI :

<http://dx.doi.org/10.11477/mf.1401208562>

岡本玲子, 関 裕子, 合田加代子, 岩本里織,

小出恵子, 芳我ちより, 福川京子, 保健師の研究成果活用力尺度の開発, 日本地域看護学会誌, 査読有, 20 巻 1 号, 2017, 13-21

田中美帆, 岡本玲子, 小出恵子, 保健師学生が日常生活実践中に記述したリフレクションの概念化 - リフレクティブスキルの質評価に向けて -, 日本地域看護学会誌, 査読有, 20 巻 1 号, 2017, 22-30

Reiko Okamoto, Keiko Koide, Yuki Maura, Miho Tanaka, Realities of Reflective Practice Skill among Public Health Nurses in Japan and Related Learning and Lifestyle Factors. Open Journal of Nursing., 査読有, 2017.5 in Print.

〔学会発表〕(計 19 件)

岡本玲子, 塩見美抄, 岩本里織, 小出恵子, 芳我ちより, 保健師の専門性発展力の変化 - 2005 年-2010 年の全国調査結果の比較より, 第 16 回日本地域看護学会学術集会, 2013 年 8 月 5 日 ホテルクレメント徳島 徳島

岡本里香, 岡本玲子, 新任保健師の実践能力向上の一手法としての Reflective Practice, 第 2 回日本公衆衛生看護学会学術集会, 2014 年 1 月 12 日 国際医療福祉大学小田原キャンパス 神奈川

合田加代子, 関裕子, 芳我ちより, 小出恵子, 岩本里織, 岡本玲子, 保健師の研究成果活用力尺度の開発と信頼性・妥当性の検討, 第 17 回日本地域看護学会学術集会, 2014 年 8 月 3 日 岡山コンベンションセンター 岡山

関裕子, 岡本玲子, 芳我ちより, 小出恵子, 岩本里織, 合田加代子, 保健師の研究成果活用力と学習要因との関連, 第 17 回日本地域看護学会学術集会, 2014 年 8 月 3 日 岡山コンベンションセンター 岡山

岩本里織, 岡本玲子, 関裕子, 小出恵子, 芳我ちより, 合田加代子, 保健師のリフレクションと実践との影響およびその関連要因, 第 17 回日本地域看護学会学術集会, 2014 年 8 月 3 日 岡山コンベンションセンター 岡山

小出恵子, 芳我ちより, 岡本玲子, 関裕子, 岩本里織, 合田加代子, 保健師の健康生活

習慣の実態－経験年数による比較－、第 17 回日本地域看護学会学術集会、2014 年 8 月 3 日 岡山コンベンションセンター 岡山 Okamoto R, Hatono Y, Iwamoto S, Gouda K, Nagano F Relationships between Practical Competence and Reflection Skill / Experience of Japanese PHNs, AMERICAN PUBLIC HEALTH ASSOCIATION 142nd ANNUAL MEETING & EXPO, (New Orleans, USA) November 15-19, 2014. 関裕子, 岡本玲子, 合田加代子, 小出恵子, 岩本里織, 芳我ちより、保健師の研究成果活用力の実態と期待される水準との比較、第 3 回日本公衆衛生看護学会学術集会、2015 年 1 月 10 日 神戸国際会議場 兵庫 岡本玲子, 関裕子, 岩本里織, 合田加代子, 小出恵子, 芳我ちより、保健師の研究成果活用力と職務遂行・考察・専門性発展力の関連、第 3 回日本公衆衛生看護学会学術集会、2015 年 1 月 10 日 神戸国際会議場 兵庫 田中美帆, 岡本玲子、保健師学生のリフレクションスキルの質評価指標作成、第 3 回日本公衆衛生看護学会学術集会、2015 年 1 月 11 日 神戸国際会議場 兵庫 岡本里香, 岡本玲子、新任期保健師の個人・家族支援能力向上のためのスーパービジョンを導入したリフレクション研修、第 3 回日本公衆衛生看護学会学術集会、2015 年 1 月 11 日 神戸国際会議場 兵庫 杉本由希子, 岡本玲子、自治体保健師が行うリフレクションの種類と回数の実態、第 18 回日本地域看護学会学術集会、2015 年 8 月 2 日 パシフィコ横浜 神奈川 杉本春菜, 古本友理, 大山郁美, 井上綾香, 阿部登志子, 浅越由美子, 小山春美, 岡本玲子、新人と共に研修を通じた指導保健師の成長－評価指標を用いた研究前後の比較分析から、第 61 回中国地区公衆衛生学会、2015 年 8 月 28 日 広島 田中美帆, 岡本玲子, 小出恵子、保健師学生の継続的なリフレクションの質 - SCAT による概念化 -、第 4 回公衆衛生看護学会学術集

会、2016 年 1 月 23 日 一橋大学一橋講堂 東京 岩本里織, 岡本玲子, 合田加代子, 小出恵子, 関裕子, 杉本由希子、保健師のリフレクションと実践能力との関係と影響要因の検討、第 4 回公衆衛生看護学会学術集会、2016 年 1 月 24 日 一橋大学一橋講堂 東京 西田洋子, 小出恵子, 岡本玲子, 岩本里織, 合田加代子, 関裕子, 杉本由希子、保健師の健康生活実践の実態、第 4 回公衆衛生看護学会学術集会、2016 年 1 月 24 日 一橋大学一橋講堂 東京 合田加代子, 岡本玲子, 岩本里織, 小出恵子, 関裕子, 杉本由希子、保健師の研究成果活用力と健康生活実践力の関連、第 4 回公衆衛生看護学会学術集会、2016 年 1 月 24 日 一橋大学一橋講堂 東京 Tanaka M, Okamoto R, Koide K、The Relationships between the Quantity of Description on Reflection journal and Reflection Skills. 19th EAFONS 2016 Makuhari Messe, March 14 2016, Ciba Japan 西田洋子, 小出恵子, 岡本玲子, 岩本里織, 合田加代子, 関裕子, 杉本由希子、保健師の健康生活習慣と専門能力との関連、第 75 回日本公衆衛生学会総会 平成 2016 年 10 月 28 日 グランフロント大阪 大阪

〔その他〕

学位論文（計 4 件）

関裕子、保健師の研究成果活用力の実態と属性・学習要因との関連、岡山大学大学院 保健学研究科 博士前期課程 2014 年度修士論文、指導教員 岡本玲子
田中美帆、保健師学生のリフレクションの具体的様相-リフレクティブスキルを示す概念とその変化-、岡山大学大学院 保健学研究科 博士前期課程 2015 年度修士論文、指導教員 岡本玲子
西田洋子、保健師の健康生活習慣の実態と専門能力との関連、岡山大学大学院 保健学研究科 博士前期課程 2015 年度修士論文、指

導教員 岡本玲子

杉本由希子、保健師のリフレクションの機会の実態とリフレクション能力との関連. 岡山大学大学院 保健学研究科 博士前期課程 2015 年度
修士論文 指導教員 岡本玲子

ホームページ (計 1 件)

<http://www.phnspace.umin.jp/program.html>

6 . 研究組織

(1)研究代表者

岡本 玲子 (OKAMOTO, Reiko)
大阪大学大学院 医学系研究科・教授
研究者番号 : 60269850

(2)研究分担者

芳我 ちより (HAGA, Chiyori)
岡山大学大学院 保健学研究科・准教授
研究者番号 : 30432157
小出 恵子 (KOIDE, Keiko)
岡山大学大学院 保健学研究科・助教
研究者番号 : 40550215

(3)連携研究者

合田 加代子 (GODA, Kayoko)
香川県立保健医療大学保健医療学部・准教授
研究者番号 : 20353146
岩本 里織 (IWAMOTO, Saori)
徳島大学大学院医歯薬学研究部・教授
研究者番号 : 20321276

(4)研究協力者

前岡山大学大学院博士前期課程
関 裕子 (SEKI, Hiroko)
田中 美帆 (TANAKA, Miho)
西田 洋子 (NISHIDA, Yoko)
杉本 由希子 (SUGIMOTO, Yukiko)
前大阪大学大学院博士前期課程
眞浦 有希 (MAURA, Yuki)